

本表の略記法について

リソースに出現する CodeableConcept 型の要素は以下のような構造をとる。

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
n	要素名				0..1	CodeableConcept		文書カテゴリ
n.1		coding			0..*	Coding		表現したいコンセプトのコード記述。 繰り返しにより複数のコード体系によるコーディングで記述できる。
n.1.1			system		1..1	uri	“http:.....”	コード体系。
n.1.2			code		1..1	code	“B0EF”	コード。
n.1.3			display		0..1	string	“持続腹痛”	コード体系におけるコードに対応するの表示名
n.2		text			0..1	string	“長く続く腹部の痛み”	表現したいコンセプトのテキスト記述

しかし、表を見やすくするため、この文書では、これを次のように 1 行で省略表記する。値の欄は、4 つの行(子要素)に使う値を列挙するが、省略することもある。多重度の記載は、1 段目に CodeableConcept 型の要素自体の多重度、2 段目にその子要素 coding の多重度(上表 n.1 の多重度)を転記している。

n	要素名				0..1 0..*	CodeableConcept	“http:.....” “00” “持続腹痛” “長く続く腹部の痛み”	説明
---	-----	--	--	--	--------------	-----------------	---	----

なお、coding の多重度の最小値が 0 (すなわち省略可能) の場合には、コードによる記述をせず、以下のようにテキストだけで記述することも許されている。

表 Consent リソース 同意情報

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
1	resourceType						“Consent”	<b>Consent</b> リソースであることを示す
2	text				0..1	Narrative		本リソースをテキストで表現したものを入れてもよい。
2.1		status			1..1	code	“generated”	固定値。テキスト内容の全てがリソースのコンテンツから生成されたことを示す。
2.2		div			1..1	xhtml	<div xmlns=“http://www.w3.org/1999/xhtml”>xxx</div>	値は例示。
3	identifier				0..1	Identifier		この同意情報に付番された ID

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
3.1		system			1..1		"urn:oid:..."	付番方法については「識別子名前空間一覧」を参照。値は例示。
3.2		value			1..1		"2020-10-002933"	同意情報 ID の文字列。値は例示。
3	status				1..1	code	"final"	同意情報のステータス。 コード表: "http://hl7.org/fhir/consent-state-codes" draft   proposed   active   rejected   inactive   entered-in-error 作成中 調整中 承認され有効 拒否 有効期限終了か旧版 エラー
	scope				1..1	CodeableConcept	" http://terminology.hl7.org/CodeSystem/consentscope "adr"	同意文書の範囲。 adr:事前指示 (Advanced Care Directive) research:研究同意 patient-privacy:個人情報同意 treatment:治療(医療行為)同意
	category				0..1	CodeableConcept		同意文書の分類区分(検索目的) http://hl7.org/fhir/valueset-consent-category.html を参考。 当面、テキストのみで記述。
11	patient				1..1	Reference(Patient)		患者を表す <b>Patient</b> リソースへの参照。

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
	dateTime				0..1	dateTime		同意を取得した日時。
	performer				0..*	BackboneElement		同意した人の情報。一般的に、同意に関係する患者は同意者ですが、特に若者や高齢者の場合、それは他の人、たとえば法定後見人である可能性がある。
		actor			1..1	Reference(Organization   Patient   RelatedPerson )		同意した人への参照。
	organization				0..1	Reference(Organization)		同意情報を管理する責任医療機関情報への参照。
	sourceAttachment				0..1	Attachment		同意書の原本情報
	verification							第三者確認情報。
		verified				boolean		同意は、performer で記述した同意者以外の、患者や家族に確認が取れている場合に true。
		verifiedWith				Reference(Patient   RelatedPerson)		確認をした第三者情報への参照。
		verificationDate				dateTime		確認がなされた日時。

\* 退院時サマリーに付与されてる事前指示 (Advanced Care Directive) 情報においては、上記表の要素の範囲で記述する。